

1 野鳥を守る活動

●自然共生サイト(仮称)認定実証事業に参加



実証事業への申請を行なった、渡邊野鳥保護区フレシマ

2022年12月にカナダのモントリオールで開催された生物多様性条約締結国会議(COP15)で採択された世界目標「昆明・モントリオール生物多様性枠組」では、2030年までに陸域の30%と海域の30%を保全地域に指定するという「30by30目標」が掲げられました。目標達成のためには、OECD/自然共生サイト(仮称)と呼ばれる民間の自然保護地域を増やすことが課題となっています。当会は「30by30」活動に賛同し、環境省の自然共生サイト(仮称)認定実証事業に参加し、試行結果として「渡邊野鳥保護区フレシマ」が認定相当と評価されました。

●タンチョウのための協定野鳥保護区の土地を買い取り、独自の野鳥保護区に



2021年度に協定野鳥保護区内の現地踏査で確認されたタンチョウ

生息地の湿原の開発等により、一時は絶滅したと考えられていたタンチョウ。当会は「鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリ」を拠点に、生息地の保全を目的とした野鳥保護区の設置をはじめ、冬期の給餌や自然採食地の整備などを行なっています。1992年度に地権者と協定を結び設置した野鳥保護区の土地(北海道鶴居村12.9ha)を、2022年4月にこの方から購入し、「野鳥保護区古山温根内」に名称を変更、当会による永続的な管理が可能となりました。これによりタンチョウのための保護区は合計23か所、総面積2,799.7haとなりました。

2 野鳥に親しみながら守る活動

●野鳥観察データベース「eBird」を活用したキャンペーンを実施



eBird/Merlin 設定と基本操作ガイド(抜粋)

コーネル大学鳥類学研究室が運営する、世界最大の野鳥観察データベース「eBird」。当会では、2021年に同研究室と協働で、eBirdの日本語版「eBird Japan」を開設しました。2022年度は、このeBirdを学校や教育現場でも活用してもらえるよう「野鳥観察を市民科学にー学校教育でのeBird利用ガイド」を発行し、自由にダウンロードできるようにしたほか、eBirdを普及させるイベントとして、5月に「愛鳥週間はeBirdでバードウォッチング！」を、11月に「eBirdでバードウォッチングウィークを楽しもう！」を実施しました。現在利用者数は約4,500人となり、集まったデータは野鳥の生態研究や保全に役立てられます。

●ツバメを守るための取り組み



感謝状贈呈先のひとつ東日本旅客鉄道 信濃町駅の皆さま

古くから人々に歓迎されてきたツバメ。しかし近年では不衛生を理由に、人によって巣が落とされたり、作られないようにするケースが増えていると考えられています。

当会では、ツバメと人の良好な関係を広く普及するため、2019年度からツバメの子育てを温かく見守っている団体に感謝状を贈呈しています。2022年度は全国の支部等連携団体(当会会員からなる任意団体)からの推薦などにより、12都道府県の15団体に感謝状およびツバメの見守りステッカーを贈呈しました。